

平成26年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(伊賀市)の概要

8月11日(月)に伊賀市の上野運動公園競技場で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「伊賀フットボールクラブくノ一」の関係者の皆さん8名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- トップチーム26人、サテライト35人、ジュニア15人の計76人の選手がいる。またフロント、現場監督・コーチが計24人で、あわせて100人の体制で運営している。
- 人権啓発活動(ストップ・いじめ)や国民健康保険団体連合会のテレビCM、乳がんネットワークの乳がん検診啓発のほか、伊賀市観光大使としての活動(伊賀鉄道との連携)、立命館大学の学生インターンシップの受入れ、犯罪被害者支援ネットワークのチャリティーマッチ、伊賀市の夏祭り(楽市楽座)、サッカースクール(市内の小学生や幼稚園児などを対象)を通じて地域の人といろいろな形で連携・協力している。
- 活動は、なでしこリーグが中心。ホームゲームの入場者数は25年約9,600人、本年6月まで約6,700人。なでしこジャパンがW杯で優勝した時より減っている。ホームゲームの際、サッカースクールや物産展、応援ダンスなどを行うなど、皆さんに観に来ていただけるよう盛り上げていきたい。

Q,この活動に参加して、良かったこと、嬉しかったこと、感動したことはありますか？

来年 40 年目の節目を迎え、なでしこリーグのどのチームよりも、歴史があるチームであることが自慢できる。

2002 年日韓W杯のキャンプ誘致の際は、国内 84 か所、韓国を含め 124 自治体が名乗りを上げた中で、我々の思いを伝え交渉した結果、伊賀市が勝てたことが自慢できる。

市民スポーツクラブとして 2000 年に再スタートした際、地域がサッカーを愛してくれること、サッカーをなくしたくないという市民の思いが強かったことがうれしい。協力してくれる地元の温泉で「頑張っているね」と声かけしてくれたり、雨天時の試合でも、チケットを買いにきてくれる人がいることがうれしい。

なかなか監督就任が決まらない中、大嶽監督（前任）も浅野監督も、12 月 25 日に就任の承諾をしていただいたので、クリスマスプレゼントになり、感動した。

サテライトの保護者の方が温かく見守ってくれるし、サポーターも下部組織のリーグの試合を県外であっても応援に来てくれることがうれしい。

「くノ一」が、伊賀地域の方にとって日常的な存在になっており、「女子サッカーの街・伊賀市」という形ができつつあるのがうれしい。

Q,この活動をより良くしていくために、こんな課題があるんだとか、行政からはこんなお手伝いがしてほしいなどありませんか？

なでしこリーグ理事会では、なでしこリーグのスタジアムの基準を Jリーグの規格にする方向で議論されており、屋根付きの観客席やナイター照明などが必要になる。東京オリンピックや 2023 年女子W杯のキャンプ誘致ができるように、伊賀市に県営サッカースタジアムを建設してほしい。県内では上野運動公園競技場以上のスタジアムはないのでありがたいが、なんとかグレードを上げてほしい。

ホームゲームに関して運営スタッフだけでは十分に対応できないし、もっとスタッフがほしいが、資金に余裕がないので、ボランティアでしか募れない。

Jリーグの盛んな街で取り組んでいるように、ホームゲームの日は「サッカーの日」のような感じで、スタジアムに来てくれた方に、地元の物産展とか応援ダンスなどを企画して、1 日中遊んでもらい、楽しんでもらえるよう工夫しているが、観客動員数が増えない。

ファンクラブの加入について、毎年 3000 人位を目標にしているが、なかなか達成できない状況である。毎年 of 更新手続きには、記念品をつけるなど工夫しているが、広まっていないので、行政にも協力してほしいと思っている。

広報で、情報力・発信力が弱い。三重テラスの活用等にも、まだ関わっていないので、県とくノ一が連携した取組をしてほしい。

自助努力をしているが、資金面が課題である。県内全域で応援してほしいので、市内の企業だけでなく、他エリアの県内企業にも支援してもらいたい。

将来の夢として、単にスタジアムを創るだけでなく、「サッカーを中心にした街づくり」を進めてほしい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

伊賀を中心としつつも、県全体を代表するチームとして応援していきたい。

平成 24 年度に策定したスポーツ施設整備計画の中で、県内にも Jリーグの試合ができるサッカースタジアムの充実についても記載している。

2021 年三重国体にむけて、国体基準に合う施設整備のための補助制度の創設について、8 月 1 日に発表した。プロ野球のできる野球場や Jリーグの試合ができるサッカー場など、広域的に活動できる施設整備の補助制度について、近々（数か月かかる）発表したい。

行政以外に、いろんな資金調達の方法があると思うので、少しでもいい環境で選手がプレーしたり、サポーターが観戦できるように、一緒に知恵を出したい。

ボランティアの運営については、みえのスポーツ応援隊（ボランティアバンク）を募集しており、その登録者に協力してもらえないか。裾野を増やす部分について、協力したい。

（スポーツ推進課）運営にかかわってもらえるような働きかけができると思う。

観客動員やファンクラブについては、三重県観光交流会でもチラシを配布している。

ファンクラブについては、更新の手続きの煩雑さがあるかもしれないので、経済界、企業への働きかけについて、スポーツ推進局とも相談してほしい。

虐待や乳がん検診啓発などのように、女性の視点での発信はわかりやすかったと思うので、情報発信について、どのような仕組みを作ればいいのか相談したい。



【「伊賀フットボールクラブくノ一」関係者の皆さんとは】

「伊賀フットボールクラブくノ一」は、伊賀市を本拠地とし、国内で最も歴史がある女子クラブチーム（2000年から市民クラブ化、前身は「プリマハムFCくノ一」）で、日本女子サッカーリーグで2回優勝するなど、全国トップクラスのチームです。サッカーを通じて地域貢献、社会活動を行うなど、地域に根ざしたスポーツ振興をしているスタッフと運営ボランティアの皆さんです。